

第6回 備前市総合教育会議 議事録

1 日時 平成28年1月28日(木) 16:00～17:10

2 場所 保健センター 3階 研修会議室2・3

3 出席者

(1) 構成員 吉村武司 市長

杉浦俊太郎 教育長

更谷暢久 教育委員

高橋千亜紀 教育委員

越智聖名 教育委員

駒澤 勝 教育委員

(2) 事務局 藤原一徳 総合政策部長

佐藤行弘 企画課長

大西健夫 企画係長

(3) 関係者 芳田 猛 教育総務課長

磯本宏幸 学校教育課長

大道健一 生涯学習課長

○事務局(藤原部長) それでは、定刻になりましたので、ただいまから備前市総合教育会議を開催させていただきます。

本日は、お忙しいところ会議にご出席いただきまして大変ありがとうございます。

まず初めに、市長より挨拶を申し上げます。

○吉村市長 はい。失礼いたします。本日は、寒い中、教育長を初めとしまして教育委員の皆様方にはご参集をいただきましてありがとうございます。

本日の協議事項は、これからの図書館のあり方についてであります。

現在、備前市の図書館は本館と分室を合わせて3カ所あります。市民一人一人が心の豊かさを実感し、生きがいのある生活を送れるように身近な学習、情報の拠点として市民の皆様方にご利用をいただいております。

近年、情報メディアの普及によりまして、インターネットから各種情報が簡単に手に入る時代となりました。特に、若い世代での活字離れや読書離れが心配されておりますが、

多くの言葉を選び、学び、想像力や表現力を養うために図書や資料を読むということは、とても大切なことであり、備前の子供たちには幼少期からたくさんの文字や活字に触れていただきたいと思っております。そのためにも、是非市民の財産であります図書館を十分ご活用をいただけるよう、これからの図書館のあり方について、本市教育にご尽力いただいている皆様としっかりと意見交換を行いたいと考えております。

いつもお伝えしておりますが、教育は人づくりであります。これからの地域社会を牽引していく人材には新たな価値を生み出し、未来を切り開いていく力を身につけることが求められてきております。このため、今の我々が与えることのできるよりよい教育環境を整備するとともに、子供たちの学ぶ意欲や主体的に探求する力の向上に取り組んでまいりたいと考えております。

全ての子供たちが将来自立し、社会で役割を果たせるよう、本市の教育のまちづくりを着実に前進させていくことを願ひまして、開催に当たりましての挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（藤原部長） 続きまして、教育長から挨拶をお願いいたします。

○杉浦教育長 はい。皆さん、お寒いところをどうもありがとうございます。言うまでもないことですが、総合教育会議というのは市長が市長の権限で招集をされるというものです。ですが、今回は教育委員会と市長とのタッグというか、同じ方向を向いていきましょうという一環で、私のほうから市長に提案を差し上げて、市長が開催を決めてくださいました。

実は、これ私がこの図書館というのをテーマにしたいと思ったのは昨日、今日のことでなくて、備前市へ来た瞬間からもう問題意識として持っておりました。今日、かなり問題点というか、厳しい辛口のプレゼンになると思いますけれども、前へ進むためには現状をきちんと認識しなければいけないというふうに思っております。備前市の子供たちの未来を担う責任が我々にありますので、それに少しでも資するように一生懸命やりたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

○事務局（藤原部長） それでは、この後の進行につきましては、運営要領の第3条に基づきまして総合教育会議の議長であります市長をお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

○吉村市長 それでは、協議に入らせていただきます。

本日の協議事項のこれからの図書館のあり方について、概要説明を教育長からお願ひを

いたします。

○杉浦教育長 プレゼンを始める前に、一言お断りをしておきたいと思っています。今回、委員の皆様にもプレゼンに集中していただくために、あえて事前に資料はお配りしません。どうしても手元にあると手元を見たくになりますので、プレゼンに集中していただく意味も含めて、まずはスクリーンに皆さんご注目をいただきたいと思います。

それと、プレゼンの大体前半が備前市における現状認識、後半が私の全くの私案です。空想といってもいいかもしれません。なので、当然紙がひとり歩きすると困るので、申しわけありませんが、傍聴の皆さんへの配付というのがやりたくてもできない状況です。ですので、しっかり頭の中に記憶に入れて見ていただければというふうに思います。

まず提案の動機ですが、本当に今まで一生懸命やられている皆さんには本当に申しわけない。ですが、教育のまちとは、私が見るところで図書館の現状というのは非常に深刻な状況だと思います。現場のスタッフは本当に一生懸命やってくれています。この間も絵本のイベント、僕、実際参加してきたんですけれども、少ない予算の中、懸命にやってくれています。そのことを申し上げた上で議論を進めたいと思います。

図書館ってどういうところかと言うと、これは僕が考える図書館なんですけれども、やっぱり単なる無料の貸し本屋っていうことではなくて、市民に知的な自立と主体的な行動を支援する、ちょっと難しい言葉ですけども、要は市民も賢くなりましょうということなんです。そうすると、結局自立するためには、もちろん質の高い教育っていうことは言うまでもないんですけども、やっぱり知の拠点になる図書館というのはどうしても必要になってくると。これはやっぱり車の両輪なんです。残念ながら、知の拠点に対するコストカット、このご時世ですから湯水のように予算を使うというご時世ではありません。が、必要などころまで削っていくっていうことは、これからの教育でのまちづくり、地方創生にも逆行することになりかねないということで、ちょっとこのまま放置できないレベルまで備前市来ているということを申し上げたいということで、今日のプレゼンになったわけであります。

僕はどういう課題認識を持っているか、というところに行きます。

何といっても市役所、それから今日熱心な議員の皆さんにもお越しいただいているんですが、十分理解がされていないんじゃないかと。図書館の本質的な役割であるとか、どういうふうなあるべき姿っていう部分も理解が不十分。これは別に市役所がサボっているとかいうことではなくて、教育委員会がこれまできちんと説明をしてこなかった。これはもう

これまでの反省も含めてなんですけれども、やっぱり主管している教育委員会が、あらゆる場で、その必要性であるとか、いろんなことを市民に対して説明をしていくべきだったというふうに思います。

これも僕は就任以来ずっと言い続けて、とにかく3年先、5年先、この町のまちづくりどうなっているのというところが、実は僕が教育委員会に来たときには全くありませんでした。ようやく動き出した小中一貫にしても、5年先どういう、学校がどういう姿になっているのかを示さないで、現場にやれといってもそれは進みませんよね。なので、実は今回ようやく半年がかりで教育大綱に沿って、あらゆる業務をロードマップ化しました。これ、市役所のホームページのトップページからもリンクが張られていますので、是非ちょっとネット不得意な方もいらっしゃると思いますけれども、見てみていただきたいというふうに思っています。

要は、僕が言いたいのはこういうことなんです。教育委員会がやる気になれば、他の自治体見たらみんなできています。なので、教育委員会としてこれから本気で取り組みたいというふうに思っているわけです。

これから、具体的にどれだけひどいかということを皆さんにお示しするんですけど、教育のまちづくりとコストカット、矛盾するコストカットが行われてきたんじゃないかというふうに思っているわけです。その結果、図書館が今のような状況になって、皆さんどうですか。半分諦めて、赤磐に立派な図書館あるからいいわとか、半分諦めと失望、この半年間ずっと問題意識を持っているんな場所で聞いてきたんですけど、こういう声が圧倒的に多かった。

今、備前市の市立図書館と、もう一つ学校の中の学校図書館というのがありますが、まずは市立図書館に絞ってお話を展開したいと思います。これ決算ベースだと思うので、まだ26年度の数字までしかありませんけれども、明らかに経費が減っています。幸い、学校図書館の経費は大体ほぼ横ばいか、ちょっと増えるぐらいで3,500万スケールでつけていただいているので、実は学校の図書館というのは、実はほかの自治体に比べてもかなりいい水準にあるんじゃないかなというふうに思っていますが、ちょっと僕も最近聞いてびっくりしたんですけど、例えばその市立図書館で言うと27年度、今年度要するに生命線である図書館システムってあるんですけど、そのメンテナンス費用までカットされた。これ、図書館やめろって言ってるのと同じことなんです。ただ、別に財政局を責めるつもりは何もなくて、やっぱり限られた税金をいかに効率的に使うかというこ

とで、本当に血のにじむような思いで財政は絞りに絞っているわけです。だから、切るのが彼らの仕事。だから、切られてもこれは図書館を守るために必要なんだっていうことを教育委員会が言わなきゃいけない。

大体、僕が来る前は財政に切られると大体素直に引っ込んでいた。言われるがままに引っ込んでいたというのが現状のように思いました。本当に必要だったら何回でも話をやりとりして、理解を得られるように説得する努力が、教育委員会に欠けていたということだと思います。

それで、ここからは県内の状況を皆さんにお知らせをしたいと思います。

自治体別の蔵書数、備前市こんなもんかなと思うでしょう。でも、これって単なる数ですから、質ではありません。僕、NHKにいたときに27自治体全部回って、その自治体を訪ねると、必ず図書館を訪問して見て回った。その図書館を見ると、その町の興味関心であるとか、大事にしている文化であるとか、そういったことが見えるので。それを放送に生かしたいと思って、必ずもう27、ただ西粟倉と新庄村は村立の図書館ではないので、実質25自治体なんですけども、蔵書の数では備前市このポジションです。はっきり言って、図書館の質からすると矢掛町よりも僕は下だと思っている。

矢掛町の図書館へ行かれたことある方？ あそこは市民文化センターと一緒に建物の、セミナー室みたいなのがすごく充実している建物なんですけれども、やっぱり矢掛の歴史と風土を非常に大切にしたい図書館でした。

それで、次が問題。今、瀬戸内が新しい図書館をつくっています。これができると蔵書が大体20万冊、大体7位か8位ぐらいになるかな、という状況だそうです。ここから先、さらに予算の総額だけで比べると当然岡山、倉敷が大きくなりますので、1人当たりの図書購入費というか、図書館予算というのをはじいてみました。要は、備前市、25公立図書館のうち最低です。トップが瀬戸内、これ新しい図書館ができるとさらに多分増えると思いますが、ほぼ瀬戸内の8分の1か、という状況であります。

教育長として、教育のまちと言いながらこういう現状は放置できないというふうな問題意識で、今日に至っているということでもあります。もう備前市、これでいいんでしょうかということです。

それで、本日の本題なんですけども、要はこれから、僕が備前市の図書館こうなったらいいんじゃないかなっていうところをお示しします。ただ、これはまだ空想の段階なんです、方向性としてこういう方向でいいかどうかということと、委員の皆さんが描く図書

館像って必ずあると思うので、今日残念ながら傍聴の皆さんからは発言いただけないんですけど、是非委員の皆さんが考える図書館像というのをお示しいただければというふうに思います。

その議論の前提として、これは割と当たり前の議論、もう使われない、利用者が少ない施設に税金投入するのは無駄だっていう考え方、これは当然の考えとしてあるんですけど、これ言葉を変えると備前市の場合は、実はずうっと長い間必要な投資を怠ってきたために施設が悪化して、その結果利用者が減ってくるっていう負のスパイラルになってるんじゃないかということを僕は感じました。やっぱり教育のまちの根幹ですから、文化施設全体について、僕は今回図書館をきっかけにしましたが、ほかの歴史民俗資料館であるとか、さまざまなそういう文化施設に関しても、きちんと一回踏みとどまって検討が必要じゃないかというふうに思っています。

僕は、町の図書館っていうのをちょっと提案したいというふうに思っています。中央図書館については、現状例えば市役所を新しくしたらその移転先に一緒に入れようとか、決まった話は何もありません。ちょっと議論が水面下で進んでいるという状況なんですけども、中央図書館についても、できれば市民の公募によって委員会を立ち上げるなり、そういう形で、やっぱり使う人たちがどういう図書館が欲しいのかということ一度ちょっと立ちどまって考えてみたらどうかなというふうに思います。ひよっとすると、もう備前市は中央図書館要りませんっていう結論になるかもしれない。そこは、まだ市民の皆さんの議論を待ってみたいとわからないんですけど。

僕は、ちょっと考えました。やっぱり新しい豪華な図書館ができるにこしたことはないですね、赤磐みたいに。でも、多分瀬戸内ができたら、さらにうらやましく思うことになると思いますが、ただ備前にもやっぱり特徴ある建物はたくさんあるし、ちょっとそういう考え方と違う方向性を一回考えてみれないだろうかということ。子供たちやお年寄りなど、幅広い世代が集える場所にすることができるんじゃないかというふうに、僕は考えています。

ここから先は、本当に僕の空想です。まだ、地区の皆さんにも何にも相談してないから、これが決まったかのように言わないでくださいね。あくまで僕のイメージです。

僕が、直接考えるように至ったきっかけでもあるんですけども、三国小学校が来年度いっぱい閉校ということで、この間協定書も地元の地域の皆さんと締結をしました。ところが、三国小学校には、これはもう僕の率直な感想です。市内の小・中学校の中で最も質

的に高い図書館があります。これ、やっぱり司書の先生の努力っていうのもあるんだと思いますけれども、ここをそのまま閉校と同時に閉じてしまうのはいかにももったいない。例えばなんですけども、ここは、もともと小学校ですから子供向けの本がたくさん多い。ここにプラス、作家の落合恵子さんがやられてるクレヨンハウスであるとか、児童図書出版協会ってのも、そういう児童書を出してる出版社がかなりの数加盟してるんですけど、そういうところと提携をして、とかにく、もうここを子供の樂園にしたらと。当然、校舎は耐震化できていますから、カフェなどを併設すれば子供だけじゃなくて大人、それからお年寄り、あらゆる世代が楽しめる場所にひょっとしたらなるかもしれない。

でも、やろうと思えば、いろんな所でできるっていうのをこれからお話しします。

来年、日生ではアマモサミットがある。これはもう言った者勝ちなんで、僕は日生を世界の里海の聖地というふうに言いたい。もう徹底的に中途半端なことしないで、日生はもう海にまつわる文献、書籍だけを集めるということで、そこに加子浦歴史文化館というところもあるんですけども、あそことどういう関係でやるのかといったことも含めて検討していったらどうかと。

さらに、当然備前焼というのは、備前市にとって大きな財産になります。ただし、備前焼ミュージアムは、もう展示の場所があります。しかし、この間備前焼の若手の作家さんたちとちょっと話をしたら、各窯元だったり、その作家の家には埋もれている文献がたくさんあるらしいんですよ。それがそのまま分散、このままだと散逸していくところを、ちょっとその調査研究の拠点みたいな役割も含めて、できれば伊部の町並みの古民家をリノベーションして、そういう場所にできないかというようなことも、これは妄想です。

さらに、香登にはこういうものがある。醤油だけじゃないんですよ。僕、香登という場所すごく大好きなんですけども、昔は菜種油であるとか、こう薬、お歯黒なんかでも知られている非常に文化度の高いところです。もう名前出しちゃいますけど、鷹取醤油さんが燕来庵という交流スペースをつくられて、あそこも新しい地域の拠点になると思ってるんですけども、やっぱりそういう地元の歴史や文化を継承する場として役割ができるんじゃないかと。

これ以外にも例えば商工会議所さんが地元の産業、耐火物であるとか、そういったところを何とか保存できないかみたいなことも会頭から伺ったことがあるんですけども、そういったところと連動すると、要は備前市内どこでもできるんです。その町を大切に思う人たちが、うちの町はこれでやるんだというふうなことで、どこにでもできる可能性があ

りますよ、ということをお願いしたい。ちなみに、これ山梨県甲州市の、古民家を改築した市立図書館です。甘草屋敷っていうらしいんですけども、これは子供図書館になりました。こっちは民間です。千葉県いすみ市っていう房総半島が膨らんでいる先端のところにある、これも古民家を改造したシェアハウスプラス図書館というところだそうです。

それから、アメリカに留学された方は割と普通の光景なんですが、これ一般の家庭の玄関口というか、庭の入り口にこういうポストがたくさん置いてあって、ただこれほったらかしっていうんじゃないで、ちゃんと全国組織の協会があって、そこのルールにのっとって出し入れをする。1冊借りたら2冊持ってきてね、みたいなことで維持をしている。その気になれば、町中にこういうのを置くことだって、たぶん地区によってはできるんじゃないかというふうに思います。

なので、いろんなことができるということをお示ししたのですが、1点だけちょっと押さえておきたいことがあるんです。指定管理制度というのは、よく聞かれると思います。図書館でも最近採用されているところが多いんですけども、これは私の主観です。やっぱりどうしても質的に低下することが多いので、備前市では採用すべきではないんじゃないかなというふうに思います。なぜそう思うか。名前は言いません。有名な図書館です。ある人口5万の九州の町で年間70万人が来館しました。ところが、税金で購入した本が中古、売れない中古本ばかりだった。さらに、その前にあった郷土資料のコーナーが廃止されて、有料のレンタルスペースになったというようなことがあったそうです。実は、消滅可能性都市のライバル高梁市が駅前に今建設中です。ただ、たぶん向こうもこういう失敗をしているので、改善されてるはずですよ。

これ、民間の仕事としてやってもらう分にはいいんだと思うんですけど、やっぱり公立図書館では、私はちょっと疑問かなあというふうに考えています。それと、備前には頼んでもスターバックスは来てくれません。高梁は消滅可能性都市と言いながら、特急やぐもがとまります。大学、吉備国際大学があります。必ずお客さんいるんですよ。なので、多分スターバックスもこの本屋も出店を決めたのだらうというふうに思います。

さて、すいません、ちょっと急ぎます。学校図書館。これについては、実はライニングで、新年度の当初予算で全校配置に向けて学校司書の配置をしたいということで、市長にお願いをしているところです。

全校配置されると、今までは2校兼務ですから司書がいけない日には図書館の鍵が閉まってしまうっていうことがどうもあったらしい。それがなくなります。つらつら書いてあり

ますけれども、学校の図書館は、常に開いてほしいと思います。悩みを抱えた子供の居場所、保健室以外に本を読んで過ごすとか、そういったことも必要になってくるんじゃないかなというふうに思います。

それで、例によって県内の状況です。備前市も2校兼務だから決して悪い状況ではないのですが、見てください。岡山、倉敷、これだけ数があって全校配置なんですよ。ちなみに、よく比べられる瀬戸内、赤磐も中学校は全校配置です。あと玉野なんかもよく比べられます、規模的にも似てるんで。ここも全校配置。津山も全校配置という状況なんで、決してやる気さえあれば全校配置はできるというふうに僕は考えています。

それで、実は司書教諭との連携強化っていうことがあって、司書教諭っていう立場の、これは教職、先生ですね、教員免許を取られた方がさらにプラスアルファの資格として持っている。要は、教育活動の企画みたいなことをされる。当然、担任であったり、教科であったり、ほかの仕事を抱えていらっしゃる。学校司書っていうのは、むしろ実際の運営管理を行う。この司書教諭と学校司書が連携してやると学校図書館、非常に改善向上を図れると。ただし、司書教諭というのは、ここに書かれてありますとおり12学級以上は、マストで必ず置かなきゃいけないけども、それ以下の、要するに備前市内ほとんどの学校そうなんですけど、置く義務がないんですが、でも司書教諭の資格を持った先生、備前市内いらっしゃいます。12学級以下の学校にもいらっしゃいますので、さらに改善が期待できるんじゃないかというふうに思います。

要は、その2人が共同することで、例えば、さえない学校図書館の見本みたいなところが、ずうっと5年ぐらいかけて、すごく質的に高い学校図書館に変貌することも可能になると。この中で授業ができたり、それから郷土資料をこの中で強化して、備前にとって何が大事かっていうことをここで学ぶことができるというふうなことで、こういったところを、日常的に鍵のかからない状態にしたいというのが僕の思いであります。

必ず出てくるんで、ちょっとこれも入れたくなかったんですが、入れます。学力と読書の関係。明らかに本を読まない子どもは成績が悪いっていうのは、小学校も中学校も同じです。ただ、因果関係はこういう結果出てますけど、余りここは強調しなくてもいいかなというふうに思っています。

それで、やっぱり基本理念が一番大事で、こういう考え方で備前市いきますというのを決めたいと思ってるんですね。町の図書館というのは、中央図書館をどうするかは別としても、市民同士がつながる広場であってほしい。学校図書館は、子供たちの未来を育むの

に当然のことですが、学びの拠点であるというふうなことで、すいません、ちょっとかなり長くなりましたが、プレゼン以上です。

○吉村市長 ただいま教育長の説明が終わりました。

それでは、ここからは協議に入りたいと思います。

委員の皆様方の発言をお願いしたいと思います。

○駒澤教育委員 それじゃあ、私のほうから。

○吉村市長 はい、駒澤委員さん。

○駒澤教育委員 教育長さんの話を聞いて、備前市の状況、図書館の状況がどういうものか、そして教育長さんの図書館について考えた基本的なことを大体理解できました。そういうことだったのかという、少し驚いたり、それからそういうふうになるといいなと思って、基本的には何の異論もないお話を聞きました。

私は以前から思ってるんですけど、この図書館というのは、例えば図書館の中で写真を見るなっていうようなものもあるんですけど、絵の本もありますし、そういうのもあるんですけど、やっぱり図書館ということは言語が中心だろうと思うんです。この言語というのは、物事、思考のやっぱり道具ですから、ここを十分に養うというのは子供たちがこれから大きくなっていく、社会で生きていくのにとっても大きな財産になるだろうと思うんです。それで、そういう観点からも、私は図書館を是非充実したいし、さらに図書館でそういう何か文化活動というふうなものを一緒にできる、本が置いてあるだけでなしに、何かちょっとあそこで授業もできるような何かいうのもあったんですけど。その図書館で、本をすぐに利用しながら語り合うというようにところができるようなコミュニケーションの場所だとか、あるいは誰かがお話をする場所にするだとかいう、そういう面も持った図書館がある、図書館であってほしいというふうに思いました。

○吉村市長 ありがとうございます。ほかの委員の方、もしご意見がございましたらどうぞ。はい、高橋委員さん。

○高橋教育委員 はい。今、教育長さんからお話を聞いて、実は毎年評価、反省とかの意見の場で、図書館が本当に隣の町にはすごい素敵な図書館があったり、ホールがあったり、そういう芸術の場でも図書館でも本当全然違うことをすごく感じておまして、常に意見を書いておりました。ただ、本当に熱意が足りなかったのかなと、教育長さんの意見を聞きながら耳が痛いなど思ったのも現実です。

実際、本当に年々幅広い年齢が憩いの場ということで、年をとって、時間をとって朝か

ら晩までずっといれるような図書館っていうのは、すごく魅力的であって、また小さい子
がご家庭にいる子がいろんな本を、無造作にいろんな本を引っ張り出して広げて読むよう
な姿もほほ笑ましく思いますし、そういうくつろぎの場、あるいは子供たちがよくテレビ
の中では図書館に勉強に行く、ああいうことがすごく憧れます。ざわざわしたところで集
中力を思いながら勉強する姿というのは、ドラマの中ではよく見るんですけど、田舎で
は余り見かけない光景で、そういうふうな図書館に勉強に行くとか、そういうふうなスペ
ースもあれば本当にうれしいと思います。

実際、本当にすぐにすぐっていうわけではないんでしょうけど、教育長さんがどんな場
所でもっていうのも、本当に三国という私たちから考えたらあんな端っこに思うことも
あったりするんですけど、実際私も吉永ということがありまして、子供の交流とかで三国
幼稚園にも行かせていただいたりしました。自然いっぱいに囲まれてすてきな場所なの
で、そういうことも可能なんだなって改めて思わせていただきました。是非本当に素敵な
図書館に向けての一步を踏んでいけたらと思います。ありがとうございます。

○吉村市長 いかがですか。更谷委員。

○更谷教育委員 私同じ考え方なんですけど、私は赤穂のほうへずっと住んでいたと。赤穂
の図書館へは、よく行ってました。大変赤穂の図書館はいい図書館でした。ただ、備前へ
来てから備前の図書館へ行こうと思わないんですね。というのは、入りにくいのもあんの
よ、備前の図書館へはね。そういう関係、日生にもありますけども、行っても大したもの
ないし、行く気はしませんでした。だから、もう少し立派な図書館、誰でも行って、わい
わい話ができるような図書館を是非望みたいと思います。

○吉村市長 ありがとうございます。越智委員。

○越智教育委員 私も、図書の文化を子供たちに、備前市の市民の皆様に育てていただき
たいという思いでいます。子供を持つ親の意見で、この今の教育長さんのプレゼンに大変
感動したのですが、もう一つつけ加えさせていただきたいんですが、これは母親の目線で
今までずっと思っていたことを差し出がましいですが、ちょっと今言わせていただきたい
んですけども、これは雇用の関係で開館日、職員の方もお休みをしないといけないとい
う状況でなかなか難しいんでしょうけど、読書をしてもらいたいと言うならば、子供たちが
暇なとき、ゴールデンウィークだとか冬休み、夏休みだとか、そういったときに図書館
に、もうこういうときこそ本を読んでもらいたい。ゆっくり本を選んで、幾つかその図書
の引き出し、宝物、宝を身につけてもらいたいと思って連れていくんですが、なかなか閉

館があったりなんかして、子供たちが読みたい時にいつでも読めるような環境であっても
らいたいというのが長年希望にして思っていた次第です。ここも加えて改善いただければ
ありがたいなと思います。

また、本日、図書館司書の先生が兼務なさってることを改善いただいているということ
で、すごくここに対しましても先生が1人で常時その学校にいらしてくださるっていう環
境にあればいいなって、これを望むのは高望みなのかしらとか思っていたところを改善い
ただいて、各校に専任の先生がいてくださる。そういう司書の先生方の教育でもって、ま
た子供たちが大きく育っていつもらえるのかというふうに期待をしております。これか
ら教育委員といたしましても、図書館の発展を望んでおります。

○吉村市長 ありがとうございます。実は、昨年の4月に杉浦さんに備前の教育長のお話
をさせていただいて、快く引き受けていただき、議会の承認後、4月1日から就任をされ
ております。私は、杉浦さんと昔から懇意なもんですから、杉浦さんの知というのを、あ
るいは経験というものを、教育行政に是非とも活用したいと思ひまして、ご無理をお願
いをしたわけであります。実は、できる限り毎週、教育長とは備前市の教育、文化のこと
について話し合っております。そういう中で、今、当初予算の編成時期でありますけれど
も、極力教育委員の皆さん方のご意見を28年には取り入れていきたいということで、財
政当局の皆さん方をお願いをしてあります。

私は、25年4月に市長に就任をいたしました。そのときに、市議会議員の方から大変
いいアドバイスをいただきました。今日のプレゼンにもございましたように、瀬戸内の新
しく図書館ができ上がったときには、実は備前市の中央図書館は15市の中で一番小さな
図書館になるのだが、市長どういうふうに考えておられるのかというような質問をいたしま
した。そのときから私は、備前市の図書というものを、行政上も大きいだけでいいとは思
いませんけども、やはり長い期間の中で15市の中で見劣りをしておられるということは、私
も市民の一人として感じておりました。

ちょうどいいきっかけが、日生中学校の特別教室をつくるという話が24年から続いて
おりまして、25年に市長を就任してすぐに見せていただきました。そのときに、私は
図書館を1階のワンフロアに持ってきなさいと。そして、3階建てで最終的には6部屋が
できるわけですが、もともと4部屋で運営をしておりましたんで、図書館のスペースをス
ライド方式にしていろんな活用をすると同時に地区の方が入れるように図書館をしたらど
うですかと。そして、本校舎と特別教室の間をもう少し天気のいいときは表で書籍が読め

るような、そういう提案をいたしました。残念ながら24年につくりました計画でやらざるを得なくなって、私自身も大変残念に思っております。

同時に、備前市の中央図書館のこともおっしゃられました。実は、私が理解しておりますのは中央図書館で市民の皆さん方が読める蔵書は、実はあれ全部じゃないんですね。聞きますと、地下のほうに相当数の図書が保管されておまして、スペースの関係上、多くの図書を市民の皆さん方に見ることができないというようなことで、25年の市長になってからこの図書館というものを、どういう形で備前市の文化水準や成熟度のバロメーターと思うてますので、私も杉浦さんの毎回会う2人だけの懇談の中でその情熱をわかっておりますので、何とか一つ備前の図書行政というものを1歩でも2歩でも前に行かせたいと。同時に、いろいろありますけども、国会図書館や、あるいは県立図書館、あるいは定住圏という形で赤穂市の図書館と備前市の図書館をお互いの市民が利用できるというような内容で、備前市の図書館に全てを準備することは不可能かわかりませんが、今の時代でございますので、いろんな工夫ができると思っております。また、人的配置についても、今回そのようなことができるように中・長期的に学校図書も充実をしていきたいと思っております。

また、今日初めてプレゼンを見ましたんですけども、あのように各地区においてもそれぞれの特色のある郷土の説明された、いろんな特色的な図書を集めてそれなりに充実することは、皆さんにおいても、備前においては耐火物の図書館、あるいは伊部においては備前焼の図書館、あるいは吉永においては森の図書館とかいうような形で、広く市民の皆さん方がそれなりに勉強できる、あるいは環境を統廃合の後に生まれてくるスペースをやることは、教育委員会事務局のほうと市長部局のほうで話をすれば、この3年ないし5年のロードマップができ上がるんじゃないかと思っております。4人の教育委員の皆さん方の意見を聞きましたが、教育長何か。

○杉浦教育長 はい、委員長。

○吉村市長 はい。

○杉浦教育長 僕としては賛成意見ばかりじゃなしに、ちょっと異論を聞いたかったんですけども。僕、反対意見が敵だと全然思っていないですよ。それはむしろ良いことで、実は一番の敵は、諦めと失望と無関心だと思っていて、是非これから積極的に地区長さんたちとも話をしていきたいと思っておりますし、やっぱり高梁市とは違うアプローチで、特に僕が今妄想している地域の町の図書館は、そんなにお金をかけずにできるはずなんで

す。豪華な図書館つくるよりは。その上で、何か豪華なのができればそれはうれしいですけど、そこまで財政的に余裕があるかっていうとちょっと難しいかなとは思いますが、逆に市長に質問なんですけど…。

○吉村市長 はい、どうぞ。

○杉浦教育長 例えばですけど、今、市庁舎があるところに移転をすると。今、図書館も一緒にそこへ移転するみたいな案があると。僕も実は詳しい図面は見せてもらってないんですが、逆に移転した後、例えばここの敷地を図書館にするとか、あるいは統廃合した学校の跡地を図書館にするとかっていうのは、真剣に検討してもいいことなんでしょうか。それとも可能性がないんでしょうか。

○吉村市長 今日、総合教育会議で議長を仰せつかっておりますので、その辺も配慮して申し上げますと、私は市長としてできるだけ国、県の力も借りながら備前市の財政出動を最少にするためには、まず平成32年3月31日までに完成をする必要がある合併特例債の活用が、大きな期限的なタイムリミットと思っております。備前の3病院も、あるいは日生にできました備前〇日生大橋もそのような合併特例債というものを使いながらリニューアルをしたり、新築をしたわけでありまして。これが法律上32年3月31日までに完成をしなければ、いわゆる使えない法律上の制約があります。

今、備前市は私の聞くとことによりますと、100億円超の合併特例債の未使用分があるんです。これを今28年でありますから29、30、31年度で完成をしなければ、それは使えないわけですね。今、高梁市がどんどんそういうものをやっ取るのも、合併特例債が合併後15年をもって使えない。そして、算定替えと言いまして、合併時の交付税を10年たった備前市の場合は昨年から1割、3割、5割、7割、9割減らされた交付税が入ってまいります。よって、昨年からいわゆるシーリングというような形で予算編成をやらざるを得ないと。また、税収も残念ながらここ11年間で減る一方である。また、今年の10月1日は国勢調査をしておりますので、この28年度の交付税はその人口に基づいて28年8月1日に国のほうから内示が来るわけでありまして、多分減らされるであろう、すなわち予算的には大変厳しいものがあるんですね。

ただ、一つ救われるのは、この合併特例債を活用することによって70%の費用については国が交付税で見えていただけるんです。そして、極端に言いますと5%の頭金があれば、残りの25%は25年の償還で払っていくことができるんですね。例えば10億円のものをつくったとします。5%ですから5,000万円の頭金があればいいんですね。そ

して、70%国の交付税で見ただけですので、7億円は国のほうが面倒を見てくれるんですね。だから、残り2億5,000万を25年払いにしますと毎年1,000万円ずつの支払いで済むわけです。よって、全国の各市町村が平成の合併で、合併に舵を切ったわけでありませぬ。

赤穂は合併をしませんでした。上郡町も合併をしませんでした。備前市は1市2町がやりました。そんなことで、定住構想も赤穂や上郡のことを考えると国が別の制度をつくって、こういう2市1町でやっておりますが、備前市だけで考えますと、31年度までにどういうものに手をつけて設計をやっていくかという、実はもうぎりぎりなんですね。

今、教育長が言われた例えば備前市役所が移転をしますと、そこに既に建物があるところに移転をするのは、それなりのいわゆる改造、内装を変えれば使用することができますが、新しいものを建てるとなりますと市の一つの実行は、まず計画をして、詳細設計までいって、予算をつけて、それから発注していきますと、ちょっとしたものでも2年は最低かかるわけです。例えばここが今、教育長の言われるように市役所が移転したとしましょう。ここで同じ市役所をつくりますと、これ潰してプレハブでどこかに市役所を1年半ばかりやらなきゃならないんですね。日生の特別教室は、あれは全部解体して新しくつくりました。その結果、プレハブが1年間要りました。そして今、本校舎のほうを耐震化しておりますので、引き続き2年間あのプレハブを使っておるわけです。これも実は小さな金額じゃないんですね。同じように、市役所がもしここにやるとすると、とりあえずどっかへ移転しなきゃなりません。そうすると、その移転をするまでの期間、いろんな設備が余計にかかるわけですから、備前市ができるだけ小さな市役所でおろうと思いましたら、なるべく節約をして後々の若い人に負担をかけないようにしなきゃならない。そのコストを考えますと、西岡市長さんから私が引き継いだ事案の一つで、旧アルファビゼンの活用というのがあるわけでありませぬので、それも一つのテーマになっております。

今、市議会の皆さん方、あるいは聴聞会の皆さん方、あるいは今、市民の皆さん方からいろんな声を聞いて、内々で次のより具体的なご意見を参考につくろうとしておりますが、それができ上がった後、例えば29年に、もしそれが可能であっても残された時間はあと30年、31年しかないんですね。そこに具体的に本格的な図書館をするなり、あるいはもっと複合的な施設をするにしても、まず、ここが移転できるかどうかという目安は、もう本当に時間は余りないんです。私が市長になりまして一番責任持ってやらなきゃならないのは、備前♡日生大橋の完成と引き渡し、そして頭島、鹿久居島とのアクセスの

問題、あるいは残された鴻島、大多府の島民、市民の皆さん方の安全・安心の問題が25年に一番責任を持って対応しなきゃならないということで、昨年4月に無事開通し、大きな事故もなくこの橋を使っていただいております。

そして、病院も3つでき上がりましたが、これも市民の皆さん方にいろいろな意味で保健福祉の面で活用いただいております。できる限り緊急性のない場合は、市内の病院を使っていただきたいと思います。

その次にありますのが、総合教育戦略といいますか、第2次総合計画をつくったときの副題が教育のまち備前で、この教育のまち備前をすることによって、いわゆる若い人たちが備前市外へ移転したり、転出したりすることがなく、ある程度の人口をカバーした備前市ができるんじゃないだろうか。同時に、今の政府のほうも総合戦略をつくって5年間の計画の中でそれぞれの首長さん、よく議会と市民と相談をしながら次の町をつくって、人口減あるいは消滅から少しでもいいプランを出しなさいということで、昨年10月つくってます。

そういう中で、今、教育長の提案がありました。決してお金をかけなくても知恵を絞れば魅力的な一つの例が図書館でありますから、これは別に図書館ということ限定したお話でないと思います。教育全般につきまして、これからの問題点のお話もありました。我々が総合教育会議で大綱をつくりました。この大綱をもとにしてロードマップをつくっていただいております。その一つが小中一貫校のロードマップで、9年間を一つの教育という期間にしていく。同時に、こども園をつくることによって9年間が15年間ですね、備前市の教育に我々は集中していこうということで、魅力のある文化的な町にしようと思っております。

一つ教育委員会事務局におきまして、教育長の意をよくそしゃくされまして、事務局として具体的な担当、そして実行をお願いしたいと思ひますし、教育委員の皆さん方にも是非ともご協力をお願いしたいと思います。

どうぞ駒澤委員さん。

○駒澤教育委員 教育長さんが、反対意見がないと言われるんですけど、絶対出ますよ、これから先。何か具体化が進むに従ってだんだん反対意見が多くなるんじゃないかと思うんですけど。

それで、要はこの図書館を新しくするのに、今日のお話聞いただけでもハードでもいろんなものが考えられる。ソフトでもいろんなものが考えられるというんですけど、やっぱり

これは早急にどういうものにするかという、提案の中にもありましたけど、委員会のようなものを早くつくることが何よりも大事なんじゃないかと思う。そこでいろいろ提案してもらうんですけど、その中に市民からの代表がいるのももちろんですけど、今日のお話でも教育長さんはいろんな所を見とられるから、それだけでも相当なんですけど、まだまだいろんな人が、いろんな意見が出てくるエキスパートがおられるんじゃないかと思うんで、そういう人のアイデアを、委員会の構成員になってもらうか、そういう人から意見書ってもらうかなどをして、そういう委員会をつくってエキスパートの意見が十分に入るようなもので構想を早く固めるということが、次へのステップの何よりも大事なもんじゃないかというふうに思いました。

○吉村市長 はい、教育長どうぞ。

○杉浦教育長 まさに今日、この総合教育会議を開いていただいた一番の狙いはそこで、僕は市民の代表できちんと議論をさせていただきたいというふうに思います。今日集まってくくださった皆さんは、その重要な候補者だと思いますので、是非よろしくお願ひしたいということと、僕、前職の時代から有識者会議が大嫌いで、確かに見識はお持ちなんですけれども、後々そこで決められたことに対して責任をとってくださらない方が多いんですよ。それよりは、きちんとその委員会のメンバーに入っていて、できれば町の図書館ができてからは、これは有給であったり、ボランティアであったり、いろんなかかわり方あると思います。読み聞かせだったらボランティアでできるかなとか、やっぱりきちんと報酬を差し上げてスタッフとして働いていただいたり、あるいは今日地域おこし協力隊も見えてますけども、3年後の起業を図書館長で起業してもらうとか、カフェを併設した図書館長になってもらうとか、いろんなアイデアがある。だから、できるだけ、できた後の運営にかかってくくださる方に委員として参加してもらいたいというふうに思います。

中央図書館については、いいものをつくりたいのはやまやまなんですけど、今日僕のプレゼンも実は10年かかると思っていて、赤磐や瀬戸内も10年かけてつくりましたから、今からやっぱり31年は、非常に無理があるかなと思いますが、希望は捨てずに、その間また状況が変わることもありますし、ふるさと納税が相変わらず好調のようですから、そういったところもきちんと積み立てをすとかいったことも考えられるかなあと思っていて、じゃあせつかく総合教育会議なんで、やっぱり決めたいと、何かを決めたいということで、まずはそういう市民による委員会の立ち上げについて、ご了承いただけるかどうか。

○吉村市長 ただいま教育長から提案がありましたように、備前におけます図書行政とい
いますか、機能をより拡充あるいは市民の皆さん方に参画してもらって、そして一つの具
体的な方向性、ロードマップを決めていこうというようなご提案でございますが、議長と
して委員の皆さん方にお諮りをいたします。

そのような方向で委員の皆さん方の賛同がいただけましたら、挙手をお願いしたいと思
います。

〔全員挙手〕

○吉村市長 ありがとうございます。

それでは、事務局の方でよく教育長と相談をされまして、より具体的に市民の方にもよ
く見える形で、図書行政あるいは学校におけます図書の活用ということを、一つ隣の市に
は負けんように10年と言わず、その半分ぐらいででき上がるようにひとつお願いをして
いきたいと思えます。

実は、私、今月千葉県でNPOでありますけども、民間で図書館の運営をしておられる
方と話す機会がありました。千葉県では、その方はもともと市役所の職員だったんで
すけども、市役所の職員を退職されまして、NPOを立ち上げて、民間で図書館の運営を
しようというようなお話を聞きました。やはり、全国各地で市民の成熟度を高めるため
には、そのような新しい目線でも考えなければ、全てが公で全てが市及び教育委員会だけ
やるという時代はもう終わっておるような気がいたします。これからは教育委員の皆さん
方には、よく図書行政等を勉強していただきまして、いろいろ教育総合会議にご意見を賜
ればと思えます。

せっかくの機会ではありますが、何かその他のことがありましたら、余り時間はありませ
んけども、お聞きをしたいと思います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○吉村市長 よろしいですか。

それでは、事務局から何かありましたらお願いいたします。

○事務局（佐藤課長） 本日は特にございません。

○吉村市長 それでは、17時までという時間若干オーバーをしております。今日は本当
に貴重なご意見、具体的にいただきました。教育総合会議としてもこれを一つ決定事項と
して進めていきたいと思えます。どうも本日はありがとうございました。